

面接力向上のために①（対話力を磨こう）

学園教職・資格支援センター長

岸 本 芳 信

“自立心・対話力・創造性” これは、皆さんがよく耳にしている本学の建学の精神および理念・目的に基づく3つの標語です。この中では「対話力＝相手の心をよく理解し、自分の意思をしっかりと伝える能力をもった、対話力にすぐれた女性を育てる。」と述べてあります。さて皆さん、“対話力”という言葉は今一度思いだしてください。これこそ面接力の基礎事項です。今回は、この“対話力”を中心に、面接力について話を進めてみたいと思います。

いままで皆さんはいろいろな場面で相手に情報を伝えるということをしてきたでしょう。そのときの伝達情報選択の基準はどうだったでしょうか。当然、とき・場所・相手によって選択基準は違ってきただろうが、通常、他人に自分を伝える場合には、自らの誇れるところを心をこめて話すこととなります。その際、オーバーアクションにならず、過小評価にならず、相手の反応を見ながら丁寧に正しく伝えることで、自分を理解してもらえることとなります。おそらく通常の場面では、自分の弱みを探り出して伝える人はいないでしょう。しかし、自らの悩みや進路の相談等の場合には、弱点もきっちり伝えないと、相手の判断が正しくもらえませんが…。ところで、本学の学生の皆さんと初めて面接練習や自己PRの文についての相談にふれた時、自らをポジティブに伝える力が弱いと感じることが多かったです。

まず、自分の今までの生きざまを振り返って考えてみてください。子ども時代に頑張ったこと、子ども時代の夢、中学時代・高校時代の学校生活や部活動経験、地域での活動や生活体験、大学時代に入ってから社会人となるにあたっての経験（ボランティア・サークル・地域での様々な体験、職業に対する思いや社会人となるにあたっての夢など）、さらに、出身学校の誇るべきところやPR事項…を、振り返ってまとめてみましょう。そうすることで、自分自身の他の人に対しての自信を持てるところがはっきりしてくるはずです。この振り返りを文章にまとめ書いてみることで、論作文力・面接力が身につけてきます。その際、今までの生活経験での夢や感動、将来への夢や仕事への情熱を込めて語ってほしいです。ここで、マイナス要素をどう排除していくかということを考えてみましょう。例を挙げてみますと、

- ①「私は小学生の頃は引っ込み思案で…」⇒「私は小学生時代は何事にも慎重に注意深く行動する…」
- ②「おおざっぱな行動で…」⇒「大局を見て行動し、小さなことにこだわらない…」
- ③「行動が遅いといわれたことが…」⇒「あわてないで丁寧によく考えて行動し…」

となるでしょう。自分の弱点も表現の仕方によっては利点となるのです。表現力の強弱が自分の思いとまったく反対に捉えられてしまうのです。自分を信じること＝自信を持つことが大切です。

あらためて“対話力”を考えてみますと、相手の意見をよく聞き自分の頭で消化し、自分の意見をまとめて相手に伝え、相手に自分の思いが確かに伝わって、はじめてコミュニケーションが成立するのであります。まず、他人の話を理解すること、そして自分の意見を整理し、正確な言葉で相手に伝えることが必要でしょう。ここに影響してくるのが、“自立心・創造性”です。「独立した責任ある人間として行動す

る力、自らの力で問題を解決する力、創造性豊かな思考力…」を身につけておくことが、話す内容に自信を持つことができ“対話力”の向上にも繋がってきます。聞き手の思いは何か、聞き手はどんな応えを求めているのか、自分の一番いいことは何か、どのように表現すれば聞き手によく伝わるか…ということが瞬時に判断できるようになると、自信を持って応えられるようになります。

“対話力”は教師になっても重要な要素です。授業はもちろん保護者対応や児童生徒対応で避けて通れない要素です。ここで、“対話力”を重視した面接のポイントをいくつかまとめてみます。

1 明るく元気に、相手がよく聞き取れるように話す。

はっきりした言葉でゆっくりめに話し、自らの明るさ・元気さをアピールするとともに、相手に内容をよく理解してもらえようように話すことが肝要です。

2 笑顔で、相手をきっちりとして話す。

初めての人、重要な話では緊張することが通常でしょう。でも、笑顔で落ち着いて話し、視線を合わせ、相手が話しやすい態度で対応しましょう。表情や目の動きにも留意し、相手の思いを推察したり自分の思いの伝達状況を確認したりできるようにしましょう。

3 言葉遣いに注意して話す。

いくらその場面になればと思っても、いざとなると普段の話の口調が出てきます。アルバイト用語や若者言葉には気をつけたいものです。また、普段から敬語を使う練習すること、ことばの意味を間違えないように熟語や諺について勉強することも必要でしょう。

4 自信を持って話す練習をする。

過去の失敗体験にこだわらず、成功体験を思い浮かべて話す。成功イメージを持って自信をつけることが大切でしょう。自分にあった手段でセルフコントロールすることを習慣づけたいものです。ただ、自分の誇れるところは自信を持って語りたいものですが、「絶対・・・」と過信になるような表現は嫌われることが多いです。また、もし誤ったことを伝えた時は、潔く訂正しましょう。

5 説得力のある話し方をする。

具体的事項、体験的事項、自らの感動した事項をもとに話すことによって、話の内容が相手を説得する力となります。是非裏づけの事項を話しに加えましょう。

6 人との出会いを大切にす。

少しでも多く人の集まる場所に出かけ、積極的に人と話す・人前で話す機会を持って度胸を付けるとよいでしょう。知らない人・初対面の人に自らを語ることもよい経験になるでしょう。

7 教養を身に付け、人間性を高める。

普段から世の中のニュースや出来事（新聞やテレビ等で）に目を配ることで、知らず知らずの間に多くの知識や教養が吸収できます。読書や新聞のコラム等で文章表現を磨くことも役立ちます。

(参考図書など)

1 神戸女子大学ホームページ「教育目標」

2 教員採用試験完全突破シリーズ「面接 99 のポイント」(小学館、2008 年発行)

3 梅森浩一著「面接力」(文春新書、2009 年発行)